

主体的・対話的で深い学びの実現を目指して

鹿児島県立大島養護学校 教諭 青木 将也

■ はじめに

大島地区唯一の特別支援学校として創立43周年を迎えた本校は、小学部25人、中学部29人、高等部61人が在籍しています。年間を通して校内研修の時間を設けており、教育を取り巻く現状と本校の課題を併せた研究主題を設定し、仮説を立て、その検証に向けて全職員で研究を進めています。ここでは特に、今年度の本校の研究について紹介します。

■ 今年度の研究取組

今年度の研究では学習指導要領改定の keyword の一つである「『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業づくり・改善」について研究を進めることにしました。その中でも特に「どのように学ぶか」という学びの質を高めていくために教師が行う授業づくりにスポットを当てることとし、校内研修係の取組として「大島スタンダード」というツールを作成しました。これは①「**全ての授業者が、あらゆる指導の形態で授業を行うときにも取り入れるもの**」〈授業づくりの最優先〉と②「**主体的・対話的で深い学び**」の授業づくりを行うための手立てのヒントの2つで構成されており、授業づくりの際の指標として、授業後の改善の視点として位置付け、職員に配布しました。

これを用いて研修を進めていくことにより、若手職員からベテラン職員までが「授業づくり・改善」を同じ視点で進めることができるようになり、経験の差によらず「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりにつなげることができました。また「大島スタンダード」だけではなく「単元・題材シート」や「授業シート」というツールも併せて作成し、これらを組み合わせながら実践を進めていくことにより、「単元・題材レベルのPDCA サイクル→授業レベルのPDCA サイクル」が機能していることを職員が実感することができるようになりました。

■ 実践を通しての成果と課題

今年度の研究を通して、「**授業づくりの型**ができたため、一授業のねらいが明確化し、児童生徒に学ばせたいことが明確になった。」また、「**授業内容・手立て・時間配分**など細かな部分まで考え、**授業が確立してきた**」というような成果が出てきています。その一方で「**授業づくりの最優先が全学習で使用可能なのか？**」というような課題も出てきました。今年度の取組を通して職員が感じた成果と課題を分析し、次年度へつなげていくことでよりステップアップしていくことができるようにしていきたいと考えています。

■ 授業力向上プログラムにおける授業公開

今年度、特別支援学校授業力向上プログラムの一環として授業公開を開催しました。研究授業では各学部で「授業づくりの最優先」を取り入れた授業を実践し、ワークショップ型の授業研究では「授業をより良いものにするためには何が必要か？」という全職員の共通の視点により、建設的な意見が多く出されました。授業公開により、職員の実践への理解が一つになり、研究がより一層深まる機会になったと考えています。



【研究授業の様子】



【授業研究の様子】

■ 考察

校内研修係として「研究のための実践にならないように」ということを意識し、研究を進めています。校内研修を「職員の授業づくりを効率的で意味のあるものに」「児童生徒の資質・能力の育成のために」という根本的な研究のねらいを忘れることなく進めることで、「研究後に、これまでよりステップアップできた！新しい視点を見付けることができた！」と思えるように今後も校内研修係として貢献していきたいです。